ST 養成校・卒業生専用 HP 寄稿文

ＳＴは普遍的な人間の本質を問い続ける職業人でもある

阿部幸泰

この春から関東方面のある養成校で ST を目指すメル友の若者から、私のＨＰ「雑学」の「『優しさ』って、相手を気遣い、思い遣る心（「雑学ＢＮ」のメル友・コメント等関係（Ⅲ）、2007.06.10.：参照）」の記事を目にしてくれて、次のような問い合わせがあった。

【　私が見落としていたのかもしれませんが、なぜ「オ母サン」という書き方をされていたのでしょうか。　】

次のように返信した。

【　そう、あえて「オ母サン」と記しました。

この表記に目を止めた鋭い感性、また、気になることは直ぐに確認する行動力は、さすがあなた！

こうした感性と行動力は、大事にしてくださね。

さて、ＨＰ記事の最後に「親になることは易しい、親であることは難しい」と記載していますよね。

単に遺伝子上、また、戸籍上での親のことをいうのではなく、子どもにとっていつも身近にいて生きていく元気を貰える存在の人（一般的には母親ですが）を現す意味で、「オ母サン」とわざわざ表記しました。

「オ母サン」の概念は、以前に「乳幼児期の『「自己－他者』形成の最基層について（「雑学ＢＮ」の覚え書関係（Ⅱ）Ｐ、2005.06.21.：参照）」で紹介しましたが、その概要は次のようなものです。

〔　オ母サン（いわゆる、子どもにとって母親に代表されるような存在の人 ）

・子どもが一日たりとも離れては生きて行けない人

・だからこそ、子どもは苦しみながらも愛し続け、共生を求め続ける人

「好きな人（ オ母サン)」がもつ機能

・子どもと相互に相手の心を最も「読み取り」合う人

・子どもの行動を「意味づけ」てくれる人

・子どもが未知の状況に踏み込んで行く時の不安を和らげ、勇気を補給する「安全基地（心の居場所)」の役割を果たしてくれる人

・子どもに最も近い味方であると共に、自分に対立してくる社会の代表者（ 乳児期は、全てを受容してくれたオ母サンが、ある日からしつける存在に)。

参考文献：岡本夏木、幼児期－ 子どもは世界をどうつかむかー 、岩波新書、2005.〕　】

上記の「オ母サンの機能」を、コミュニケーション障害のある方々（当事者）を対象とするＳＴに置き換えると、次のように表記できると思う。

【　当事者と相互に相手の心を最も「読み取り」合う人

・当事者の行動を「意味づけ」てくれる人

・当事者が周りとの人間関係（コミュニケーション）を再構築して行く時の不安を和らげ、勇気を補給する「安全基地（心の居場所)」の役割を果たしてくれる人　】

このように、コミュニケーション障害のある、なしに拘わらず、「生きる（生活する）→人間関係→コミュニケーション」と云えることから考えると、正にＳＴは普遍的な人間の本質を問い続ける職業人でもあると云えます。

それだけに、みなさんのなお一層の自らの切磋琢磨と向上心を期待します。

最後に、私のＨＰサイトを厚かましく紹介させていただきますので、お時間のある時にでも覗いてください。

「雑学」ＨＰ：　http://www.h4.dion.ne.jp/~dekunobo/

「雑学ＢＮ（バックナンバー)」ＨＰ：　http://dekunobo-abe.web.infoseek.co.jp/